



【第●回】

LRM

企業コード：582488166
代 表：幸松哲也氏
所 在 地：大阪府大阪市中央区南船場1-16-23
T E L：06-6260-3601
設 立：2006年（平成18年）12月
資 本 金：500万円
事 業 内 容：情報セキュリティコンサルティング等

情報セキュリティと利便性のジレンマ

昨年7月に発覚したベネッセの個人情報流出事件。顧客情報が最大で2070万件流出し、企業側は利用者への補償として200億円の原資を準備するなどその対応に追われることとなった。さらに1月29日には全国の被害者1789人が、1人当たり5万5000円の損害賠償を求める集団訴訟を東京地裁に起こすなどその余波は未だ収まらずにいる。一方、2005年に発生したJR福知山線の脱線事故、未曾有の列車事故に安否を気遣う家族の問い合わせが病院に殺到、しかし個人情報の保護を理由に、安否情報は開示されず現場は混乱したという。一度流出すれば企業側は計り知れないダメージを受ける個人情報流出事件。逆に趣旨を没却した厳格さはかえって現場を混乱させかねない。情報セキュリティと利便性との間にはこうしたジレンマを伴うことが多いようだ。

情報セキュリティの「ダイエット」

本日紹介するLRM株式会社は情報セキュリティのコンサルティング会社。代表の幸松氏は、ISMS認証審査機関で主任審査員としてISMS審査業務にも従事するなど、いわゆる情報セキュリティのプロ中のプロである。多くの企業が陥りがちなのが、情報を守るためには、高価なセキュリティシステムを導入し、様々なルールを厳格化することだという勘違い。しかしそれでは、今までの業務に負荷が増すだけで、むしろ効率は落ちてしまう。そこで重要となるのが、当社が唱える「Security Diet（セキュリティダイエット）」の考え。過剰なセキュリティや無駄な情報をそぎ落とし、情報利用の効率と業務品質の向上に繋げる情報セキュリティを実現してこそ価値があるとのこと。

情報セキュリティのファシリテーターとして業務効率改善を実現

また、情報セキュリティと言うとつい技術面や制度面に注目しがちだが、本当に重要なのは、人のマネジメントの部分だと幸松氏はいう。ISMSの認証も取得することだけが目的化してしまえば、規定の数ばかり増え、日常業務と乖離し、その結果業務効率が落ちてしまうケースも多いようだ。そこで当社がコンサルティングで重視しているのは、情報セキュリティのファシリテーターとしての役割。各部



代表 幸松 哲也氏

の従業員との議論を通じて多くのルールを見直し、業務改善のためのPDCAサイクルを回すことで、現場サイドのコスト削減や業務効率改善を実現する。だからこそ企業文化として情報セキュリティの意識が従業員に定着していくのだ。様々な個人情報流出事件を見ても、結局は人の運用面の問題だったケースが多いのも事実。情報セキュリティの意識が、企業文化として従業員の隅々まで行き渡るからこそ、強靱なセキュリティが実現し、大きな価値を生むこととなるのだ。

情報セキュリティへの支出は「投資」だ

当社の経営理念は「守るべき情報はしっかり守り、利用すべき情報は積極的に利用して企業価値を上げる仕組み作り」。業務効率の改善、業務の質の向上を実現するからこそ、情報セキュリティへの支出は決して「コスト」ではなく、むしろ将来への積極的な「投資」なのだと言います。当社のホームページでは導入実績のある様々な企業の喜びの声が掲載されている。是非一度、ご覧いただきたい。

【セミナーなどお問い合わせ先】

当社では無料セミナーも開催している。

内容等の問い合わせ先については以下をご参照。



フリーダイヤル：0120-979-873

(10:00～18:00 / 平日)

E-mail：info@lrm.jp

H P：http://www.lrm.jp/

(取材・文／小澤貴裕)